

令和6年度 大分市 自主防災組織代表者・防災士等

令和6年5月29日
J:com ホルトホール大分
大ホール

フォローアップ研修

自主防災リーダーが活躍するために ～能登半島地震の現状と課題～

愛媛大学防災情報研究センター

副センター長 二神 透

本日の講演内容

- 能登半島地震の被害状況
- 能登半島地震の課題
- 4月17日豊後水道における地震について
- 南海トラフ巨大地震
- 大分の地震被害想定
- 自主防災リーダーが活躍するために

2024年能登半島地震 被害状況

令和6年1月1日16時10分 M7.6

調査日 令和6年1月11日
令和6年3月17日
令和6年5月17, 18日


石川県の被害状況

	死者	避難者	家屋被害
県計	222人(14)	1万6742	2万803棟
珠洲市	99 (6)	3170	多数
輪島市	88 (3)	6355	多数
穴水町	20	1800	1000
能登町	7 (5)	1799	多数
七尾市	5	1718	6775
志賀町	2	1150	2542

※避難者は15日現在、2次避難除く。()は災害関連死。
安否不明者は、輪島市18人、珠洲市8人

能登半島北東部の津波浸水範囲の分布

大分大の岩佐助教らの調査に基づく



能登半島地震の課題

- 奥能登の震度は震度6強, 震度7
- 旧耐震木造家屋の壊滅的な被害
- 道路の寸断によって多くの集落が孤立
- 離れた地域で大規模な液状化による被害
- 各地で急傾斜地の崩落・山腹崩壊
- ライフラインの休止(特に断水)による生活への影響

令和6年4月17日23時14分頃の豊後水道の地震について

震度6弱を観測

震度6弱 愛媛県 高知県

(揺れの強かった地域)
家の倒壊や土砂災害の危険
今後の地震や雨に十分注意
危険な場所に入らない！
※1週間程度(特に今後2～3日の間)
最大震度6弱程度の地震に注意

4月17日23時19分発表



出典元 気象庁

<https://www.jma.go.jp/jma/press/2404/18a/kaisetsu202404180110.pdf>

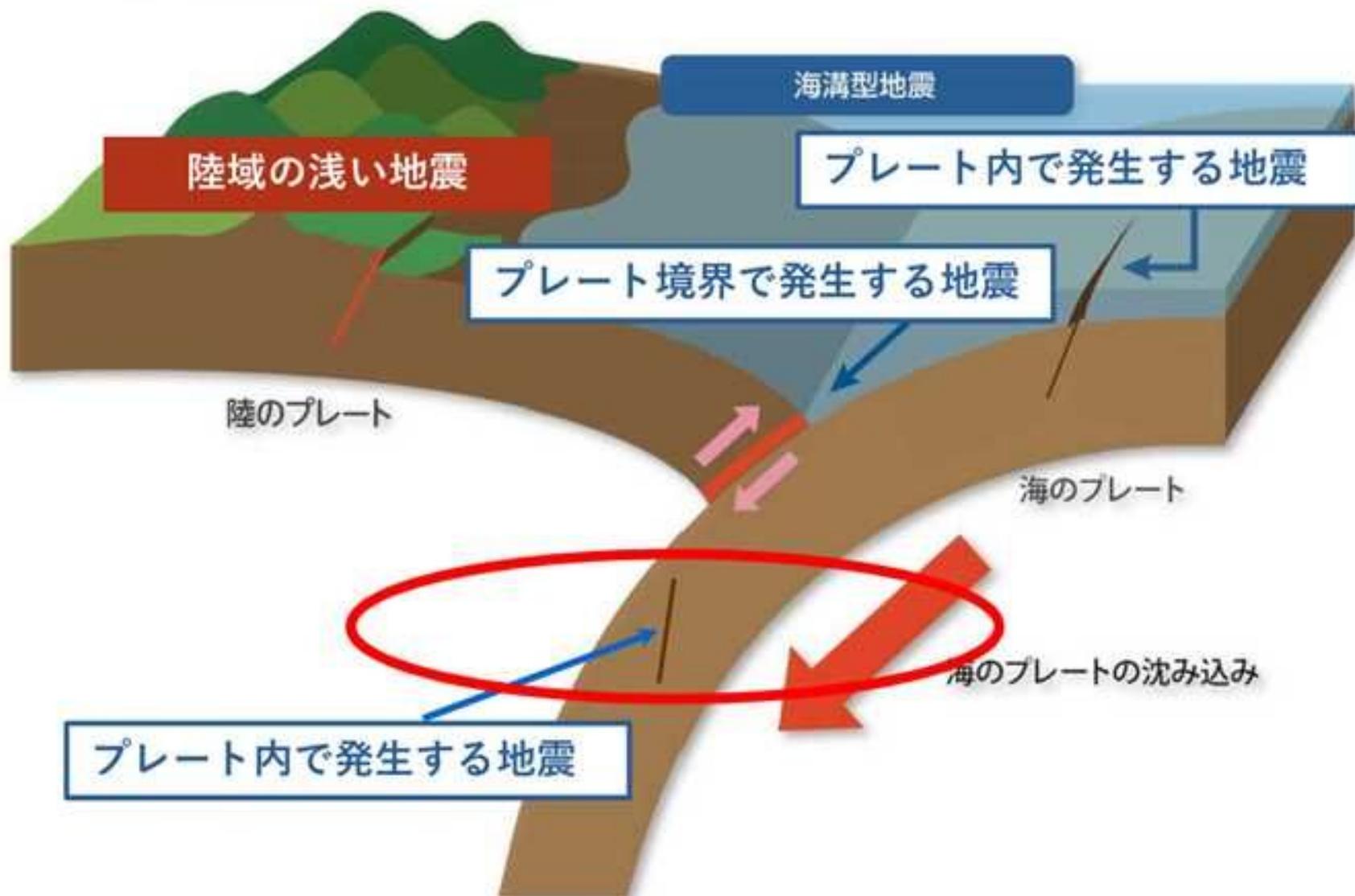
地震の概要

検知時刻 <small>(最初に地震を検知した時刻)</small>	4月17日23時14分
発生時刻 <small>(地震が発生した時刻)</small>	4月17日23時14分
マグニチュード	6.6(暫定値;速報値の6.4から更新)
発生場所	豊後水道 深さ 39km(暫定値;速報値 深さ約 50kmから更新)
発震機構	東西方向に張力軸を持つ正断層型の地震(速報)
震度	【最大震度6弱】愛媛県の愛南町(あいなんちょう)、高知県の宿毛市(すくもし)で震度6弱を観測したほか、中部地方から九州地方にかけて震度5強~1を観測
地震活動の状況 18日00時40分現在	今回の地震発生後、震度1以上を観測した地震が8回発生(震度4:1回 震度3:1回 震度2:2回 震度1:4回)
長周期地震動の観測状況	高知県西部で長周期地震動階級2を観測

南海トラフ地震の発生確率に「影響なし」

- 4月17日、大分県佐伯市などで震度5弱を観測した地震について、気象庁の検討会が5月9日開かれ、南海トラフ地震が発生する可能性に影響はないと評価しました。
- 気象庁の「南海トラフ地震評価検討会」が9日開かれ、4月17日に発生した豊後水道を震源とする地震について分析しました。
- 会議の結果、豊後水道の地震はフィリピン海プレートの内部で発生していて、「南海トラフ沿いのプレート境界の固着状態に特段の変化をもたらさないと考えられる」と評価。大規模地震が発生する可能性が高まったと考えられるほどの観測はなかったと結論付けました。

日本列島周辺で発生する地震のタイプ

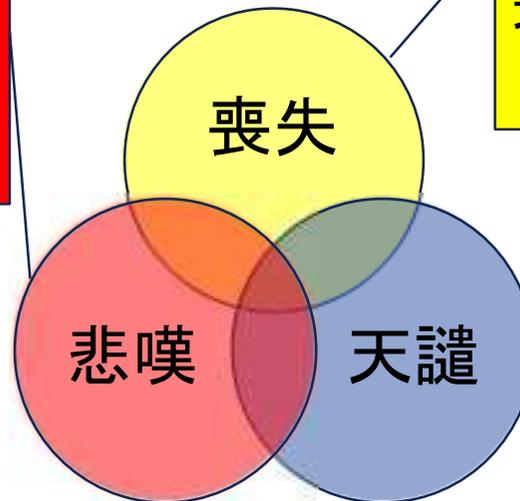


災害の世紀に備える

- 巨大地震発生の周期に入る
- 南海トラフ地震の発生確率 30年以内に70～80%
- 異常気象が多発(豪雨災害・浸水害・土砂災害)
- 地域で災害による犠牲者を出さないためには？
- 自助 自分の命は自分で守る
- 地域の様々な人々が連携して備える必要

災害とは・・・？

喪失がもたらす結果
残虐で過酷
苦しみや悲しみを押し付ける



人間にとって大切なものを
失ってしまう
(人命, 財産, 生活・・・etc)

その時代, その社会が持っていた誤りや歪みを被害という形で
顕在化させて, それに気付かせる役割を果たす
「傲慢な人間に対する自然の報復」

社会が持つ誤りや歪とは

1995年阪神・淡路大震災

○耐震性の無い建物が市街地に広がっていた

2011年東日本大震災

○津波避難を行わなかった(想定を超える災害に対応できなかった)

近年

○雨の降り方が昔と変わってきている(気候変動)

○降水量が増加傾向・線状降水帯が多発

○台風の大規模化・高潮被害の激甚化

- **地震火災の際の安全確保**

- 大きな地震時では、道路や消火栓の破損、建物倒壊によって消防力が期待できない
- 火災が発生したら消火器で初期消火
- 近所の住民と協力し、バケツリレー
- 天井まで火が燃え移った場合は避難

- 風が強く、複数の火災が発生している場合は、火災に巻き込まれないように、避難する必要があります。

• **地震火災のシミュレータを活用して下さい**

決して未来ではない 「もしも」に備えて

防災（ぼうさい）とは災害を未然に防ぐための各種行為、施策、取り組みをいう。災害の概念が広いので地震や風水害のような自然災害のみならず、火災、爆発のような人為災害、あるいは伝染病のようなものへの対応も含めて使われることがある。

活動情報

Activity Information

イベント情報

Event Information

組織概要

Organization Overview

愛媛地域防災力研究

連携協議会 Conference Outline

研究成果

Research

四国防災八十八話・ダウンロード

Download

センターギャラリー

Center Gallery

えひめ防災フォーラム2014開催決定

2014/8/12 火 13時30分～ ひめぎんホールメインホール



火災延焼シミュレータ ダウンロード

Simulator Downloads

ダウンロードはこちらから

愛媛大学防災情報研究センターHP

大分県地震被害想定(建物崩壊)

地震名	季節時刻	死者	重篤者	重傷者	中等傷者
中央構造線断層帯による地震	冬 5 時	2,214	45	235	3,613
	夏 12 時	1,554	49	247	3,976
	冬 18 時	1,698	43	222	3,533
日出生断層帯による地震	冬 5 時	354	11	63	760
	夏 12 時	258	14	73	912
	冬 18 時	276	12	63	791
万年山-崩平山断層帯による地震	冬 5 時	19	0	0	23
	夏 12 時	13	0	2	31
	冬 18 時	13	0	1	26
南海トラフの巨大地震	冬 5 時	62	3	22	256
	夏 12 時	53	5	29	335
	冬 18 時	52	3	23	282
周防灘断層群主部による地震	冬 5 時	0	0	0	0
	夏 12 時	0	0	0	0
	冬 18 時	0	0	0	0
プレート内地震	冬 5 時	17	0	5	80
	夏 12 時	14	1	7	98
	冬 18 時	14	1	6	85

大分県地震被害想定（津波：早期避難率低い）

地震名	季節時刻	死者	重篤者	重傷者	中等傷者
中央構造線断層帯による地震	冬 5 時	16,440		3,872	7,519
	夏 12 時	26,864		2,409	4,677
	冬 18 時	27,587		2,389	4,635
南海トラフの巨大地震	冬 5 時	15,115		3,968	7,701
	夏 12 時	20,023		1,703	3,302
	冬 18 時	19,463		1,588	3,086
周防灘断層群主部による地震	冬 5 時	859		387	750
	夏 12 時	883		217	424
	冬 18 時	924		213	417

大分県地震被害想定（津波：早期避難率高い）

地震名	季節時刻	死者	重篤者	重傷者	中等傷者
中央構造線断層帯による地震	冬 5 時	4,882		1,486	2,885
	夏 12 時	9,996		919	1,783
	冬 18 時	10,716		1,221	2,368
南海トラフの巨大地震	冬 5 時	616		63	120
	夏 12 時	538		16	31
	冬 18 時	577		20	40
周防灘断層群主部による地震	冬 5 時	445		198	385
	夏 12 時	463		110	215
	冬 18 時	483		108	207

防災リーダーの役割

I .地域防災リーダーの必要性と役割

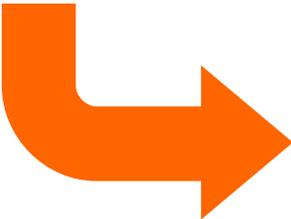
なぜ重要？

II .リーダーシップをとるコツ

どんなことを意識すべき？

III .平常時にリーダーが率先すべき活動

具体的には、何をすればよいの？



□ 防災リーダーとして地域の防災力を高める取り組み

I .地域防災リーダーの 必要性と役割

II .リーダーシップをとるコツ

III .平常時にリーダーが率先すべき活動

- ① 自助・共助・公助と地域防災リーダー
- ② 共助における地域防災リーダー
- ③ 災害時のリーダーの役割

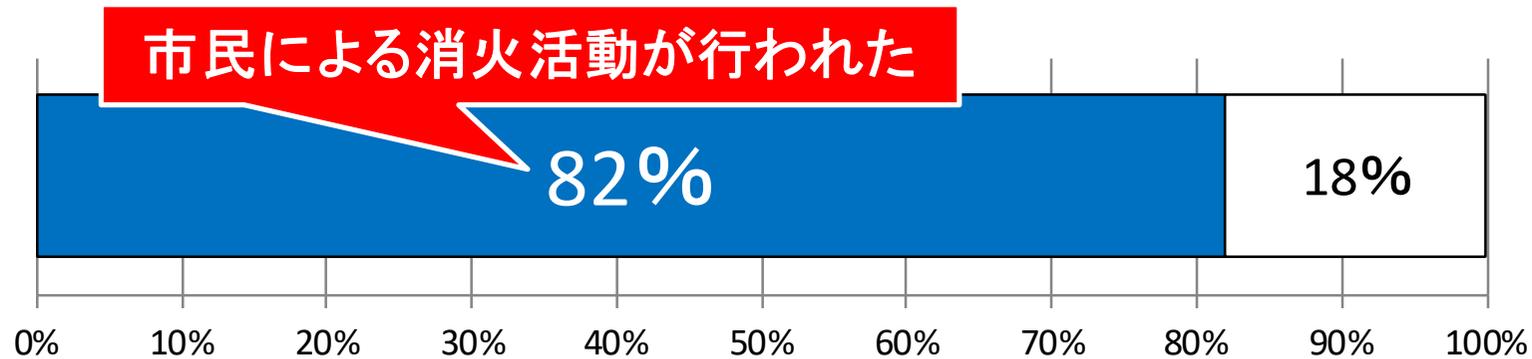


目指すリーダー像(平常時・災害時)

「共助」の重要性

● 阪神・淡路大震災における消火活動

- ✓ 神戸市内で市民消火活動の有無が判明した現場94件中、市民による消火活動が行われたのは約8割（77件）

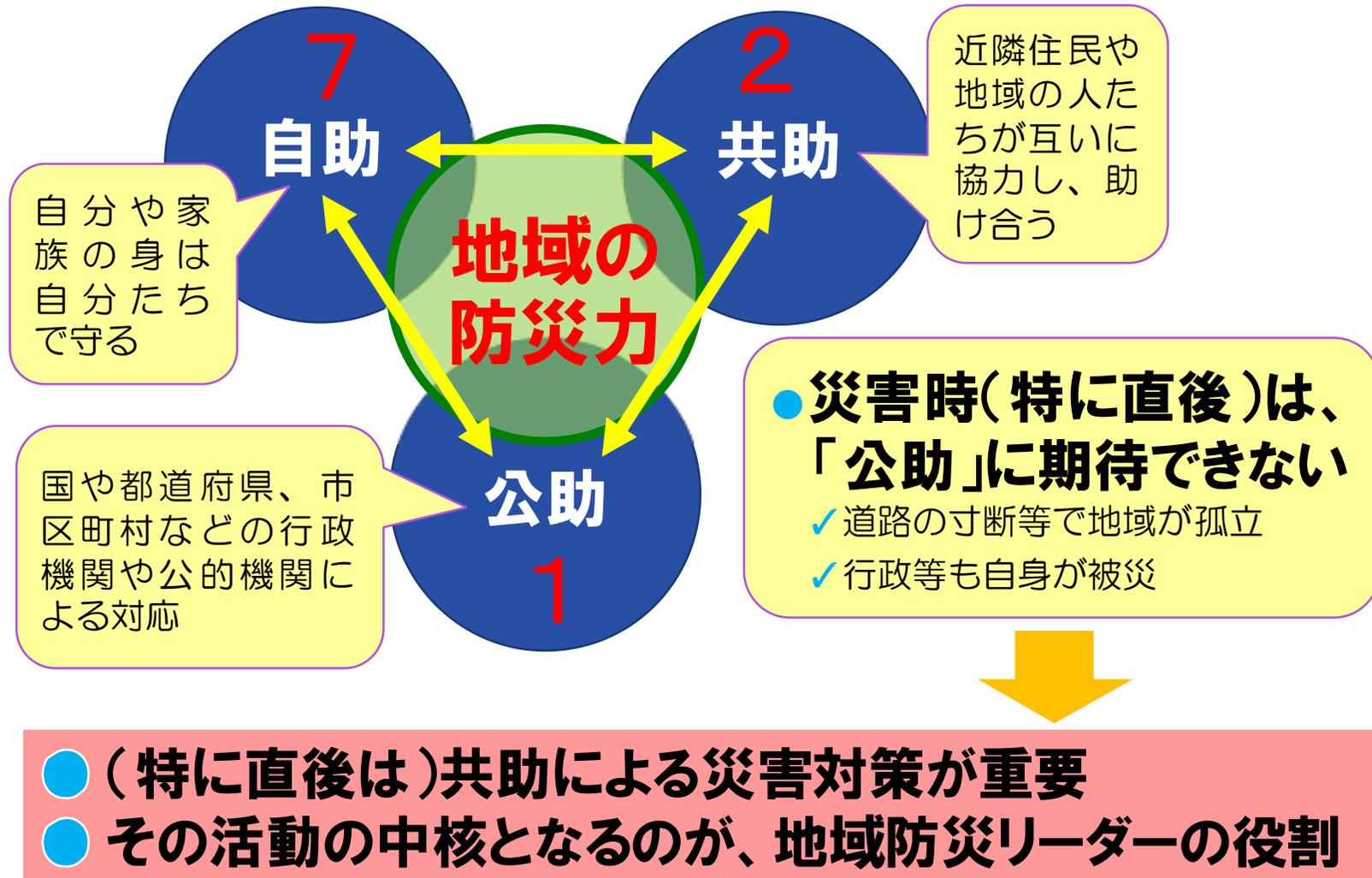


● 阪神・淡路大震災における地域による消火活動事例

長田区西代市場火災	自治会リーダーの呼びかけで 200人以上 のバケツリレー 倒壊家屋を動かし延焼防止
東灘区御影西町火災	子供を含む 約300人 がバケツリレー
長田区東尻池町火災	近隣企業からポンプ、ホースなどの提供を受け、活用

日本火災学会「1995年兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」
(1996)

① 自助・共助公助と地域防災リーダー



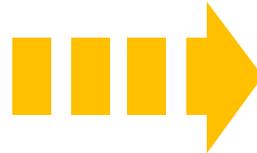
②災害時のリーダーの役割

- 1) 被害情報収集を指示し、**被害状況を把握**する
- 2) 防災組織としての活動の方針を決定し、**活動内容を指示**する
- 3) 組織の活動状況を把握し、必要に応じて活動の修正を図る
- 4) 行政、他の地域組織、ボランティアとの**連携を図る**
- 5) 復興のため、**地域の意見集約や合意形成**を図る

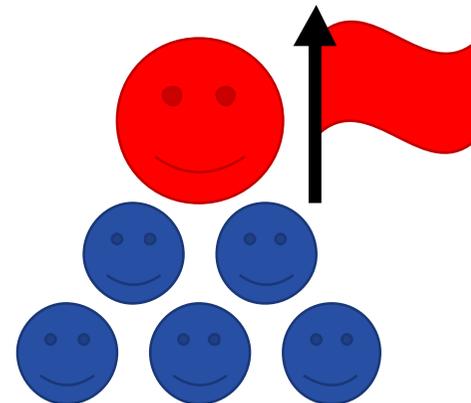
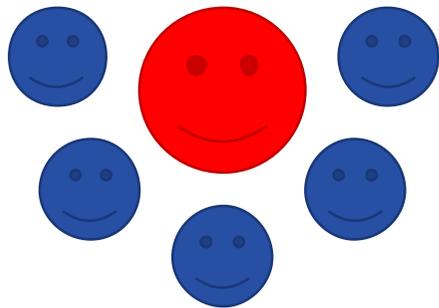
③共助における地域防災リーダー



平常時から、リーダーとして地域で中心となり活動することで…



災害時、地域住民の先頭に立って、地域の防災活動を主導していくことができる



目指すリーダー像（平常時・災害時）

平常時

災害発生

災害時

平常時

- 防災に関心を持つ（災害対策の経験があればなお良い）
- 行動力がある
- 自己中心的でなく、地域住民全体のために考える
- 多数意見を取りまとめ、また、少数意見を尊重する

災害時

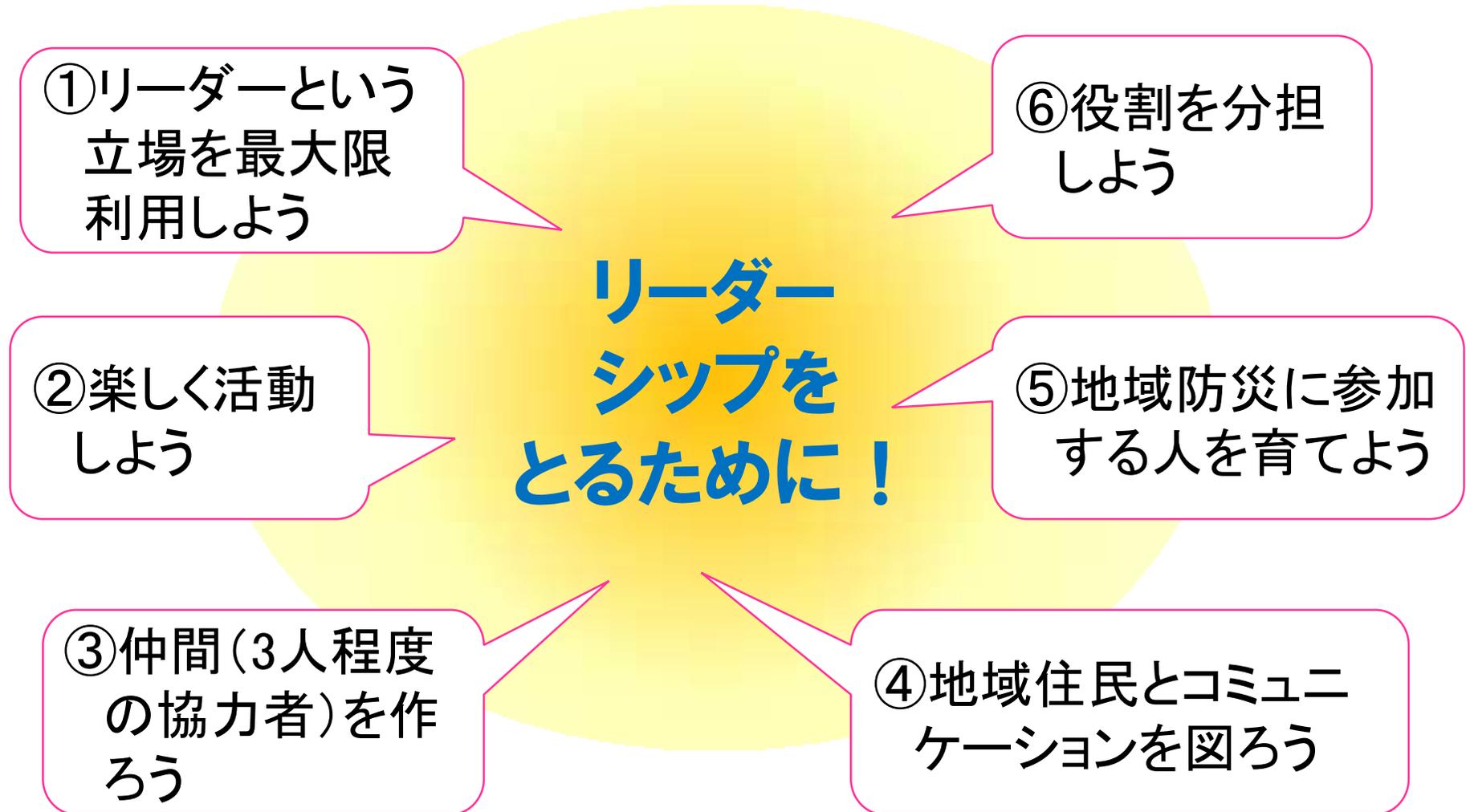
- 非常時の現場の状況をつとめしきる
- 周囲に声をかけ、災害対策活動に協力を求める
- 応急対策活動や避難所運営、地域の復興の進め方など防災活動に関する知識や知恵を活用する

I .地域防災リーダーの必要性と役割

II .リーダーシップをとるコツ

III .平常時にリーダーが率先すべき活動

Ⅱ.リーダーシップをとるコツ



①リーダーという立場を最大限利用しよう

- 地域に認められた「地域防災リーダー」ということの認識と自信を持つ
- リーダーの立場を最大限利用することを考える

<例えば...>

【地域の住民に対して】

- ・ 防災活動等への参加を積極的に声をかける

【行政や他の地域組織に対して】

- ・ 組織同士という立場で話し合いや協力を依頼する

リーダー
だからこそ
できること!



②楽しく活動を進めよう

- 活動が活発な団体には、みんなが楽しんで活動している事例が少なくない
- 楽しく活動することにより...
 - ✓ 活動の達成が得られ、次の活動への意欲がわく
 - ✓ 参加する住民の輪が広がる
- 「楽しく」をキーワードに活動していくことを考えてみる
 - ✓ 地域のイベントを活用して「防災」を入れ込む
 - ✓ コンクール、ゲーム、映画会など訓練やイベントを楽しめる工夫を取り入れる



③仲間を作ろう(3人程度の協力者)

×

リーダー一人で、組織運営や災害対策活動の指揮を行うのは、負担が大きく、無理

○

組織運営で協力してもらえる仲間(3人程度の協力者＝役員の立場)を作ることが重要

仲間がいることで、平常時には、組織運営や活動の指示などで相談や役割分担ができる

災害時には、リーダー不在時でも、代わりに地域の防災活動の指示ができる



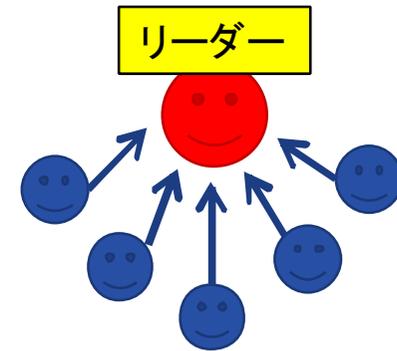
仲間の中に女性の参画を!

④地域住民とコミュニケーションを図ろう

● 平常時から「地域に『顔』を売っておく」

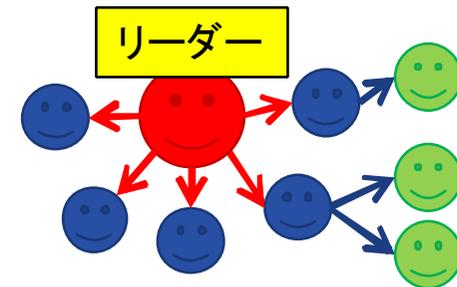
- ✓ 地域住民に自分が地域防災リーダーであることを知ってもらおう

- リーダーは全住民を知ることは不可能だが、**全住民がリーダーはだれか理解することは可能**



- ✓ 地域住民を知ることで、地域の人的なネットワークを広げる

- **地域の活動では「顔の見える関係」が重要！**
- 活動する上で役立つ資格やスキルを持った人材を探しやすくなる



⑤地域防災に参加する人を育てよう

- **楽しい訓練やイベントを企画し、まずは地域住民に防災活動へ参加してもらい、防災への関心を高めてもらうことが必要**
- **参加した住民に積極的に声をかけ、地域防災活動への継続的な参加・協力を促す**



こうしたことを繰り返し、地域の防災活動の必要性を理解し、活動してくれる住民を多く育成

⑥役割を分担しよう

● 他人に積極的に任せる

- ✓ 任せた作業の進捗などの管理はしっかり行う
- ✓ 役割分担する際は、責任と権限を与える



こうして育成した人材から、次の世代の地域防災リーダーの候補を見つけることも重要！

Ⅱ .リーダーシップをとるコツ

チェックリスト「リーダーシップをとるコツ」

① リーダーという立場を最大限利用しよう

- リーダーという自覚はありますか？
- リーダーという立場を利用する具体策はありますか？

② 楽しく活動しよう

- 活用できる地域のイベントはありますか？
- 楽しく防災訓練を実施する具体策はありますか？

③ 仲間(3人程度の協力者)を作ろう

- 協力してくれる仲間が見つかりますか？

④ 地域住民とコミュニケーションを図ろう

- 「顔」を売れる地域のイベントはありますか？
- 地域の人的ネットワークが広げられそうですか？

⑤ 地域防災に参加する人を育てよう

- 地域住民に積極的に声をかけられますか？
- 防災活動に積極的に参加してくれる人がいますか？

⑥ 役割を分担しよう

- 役割分担を積極的にできますか？

I .地域防災リーダーの必要性と役割

II .リーダーシップをとるコツ

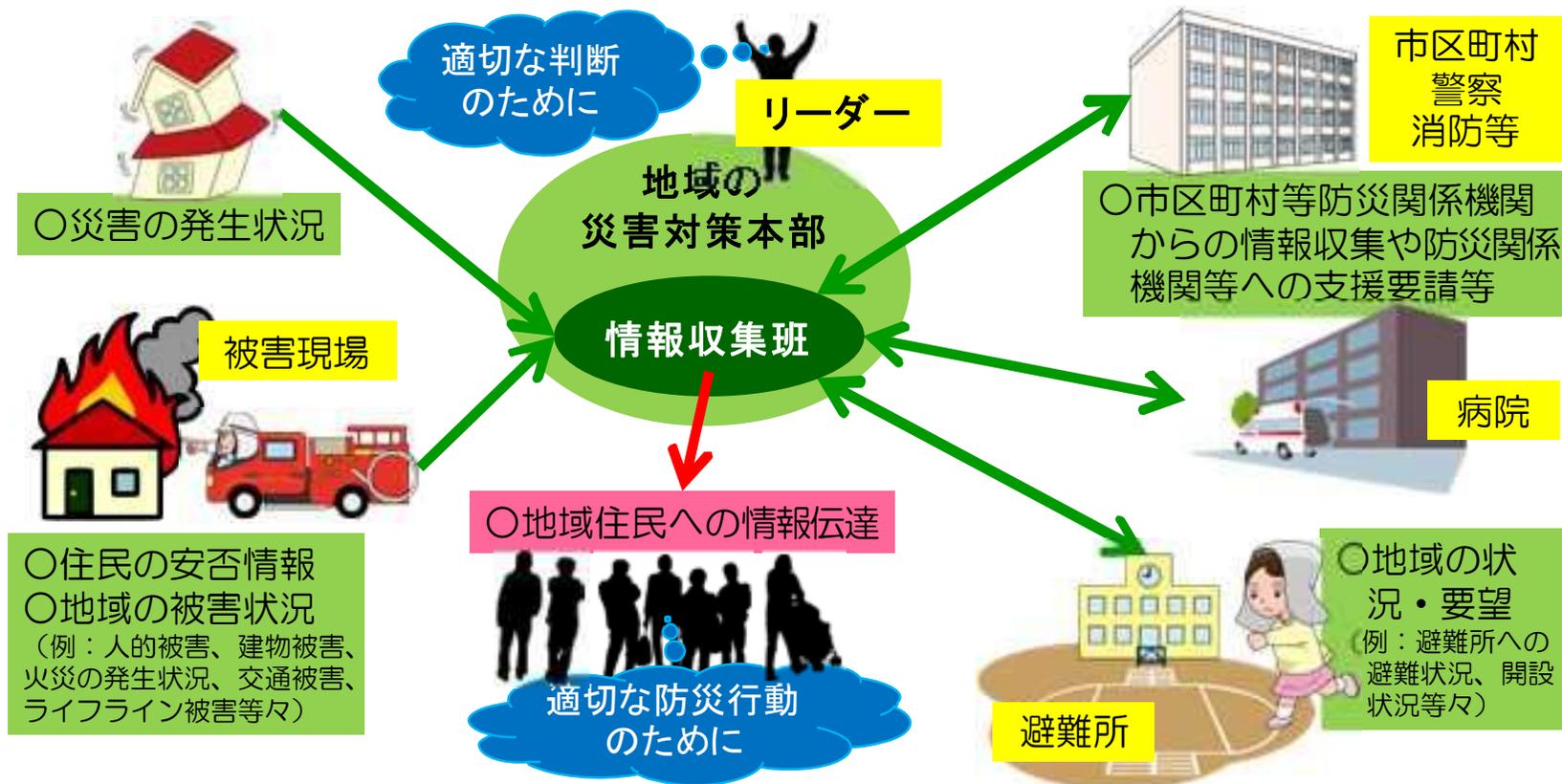
III .平常時にリーダーが率先すべき活動

Ⅲ. 平常時にリーダーが率先すべき活動

- ① 住んでいる地域の理解
- ② 自助の推進
- ③ 情報の収集・伝達のしくみづくり
- ④ 防災訓練やイベントの実施
- ⑤ 避難所運営体制づくり(愛媛県宇和島市)
- ⑥ 要配慮者支援体制づくり(名簿を活用した訓練)
- ⑦ 関係機関との連携
- ⑧ 受援力の強化

③情報収集・伝達のしくみづくり

- 災害時にリーダーが適切な判断をしたり、地域住民が適切な行動をしたりするためには、より正確な「情報」を迅速に収集・発信伝達する「しくみ」づくりが重要である



④防災訓練やイベントの実施

例：地域の初期消火の能力を強化したい！

基本的な技能訓練

- バケツリレー訓練 * 1



- 消火器取扱訓練 * 1

訓練内容も
より高度に、
実践的にしていく

災害時を想定した訓練

まちなかでの訓練



発災対応型
防災訓練
(東京都
墨田区) * 2



④防災訓練やイベントの実施

色々な防災訓練やイベント



④防災訓練やイベントの実施

- 訓練における「失敗」の必要性(重要)
 - ✓ 訓練の中での「失敗」は、次の活動への教訓
 - ✓ 訓練のやりっぱなしが一番ダメ



**訓練計画自体に速やかな「ふりかえり」まで
を含めておく**

⑤避難所運営体制づくり

愛媛県宇和島市は愛媛大学と協力してマニュアルを作成しました

- **避難所を運営する関係者(行政、施設管理者等)との話し合い**
- **避難所開設・運営マニュアルを作成**
- **避難所を運営する関係者を交えた避難所開設・運営の訓練の実施**

⑤避難所運営体制づくり

愛媛県宇和島市は愛媛大学と協力して避難所運営マニュアルを作成しました

● **災害時の避難所運営は「共助」が大きな役割を果たす**

- ✓ 東日本大震災では...
 - その日の夜から避難所運営が始まった
 - 外部と孤立し、行政の支援が受けられない地域が多かった



● **平常時に避難所運営の体制づくりを準備する**

- ✓ 避難所運営体制づくりの手順
 - ①避難所運営のための関係者（機関）を交えた体制づくり
 - ②避難所運営計画・運営マニュアルの策定
 - ③避難所運営訓練での実践

女性や障がい者などの
多様な主体
の参画！

避難所運営訓練の実施例



○一時集合場所から
避難所への誘導



○避難所間仕切り組立



○炊き出しの準備



○避難所名簿作成（受付）



○宿泊体験



○地域の被害状況
イメージ訓練の実施

松山市高浜女性の意見（避難所運営）

- 入口（受付）女性だけでなく男性も配置する。
- 食事づくり等、女性だけでなく男性も募り、女性だけに負担がからないように配慮する。
- 世代、家族構成を配慮しエリアを作る。（乳幼児連れ、高齢者など）
- 女性、子供には防犯ブザー等配布し、防犯に努める。
- 物品等の仕分けも重いものがあり、男性も手伝ってほしい。

⑥要配慮者支援体制づくり

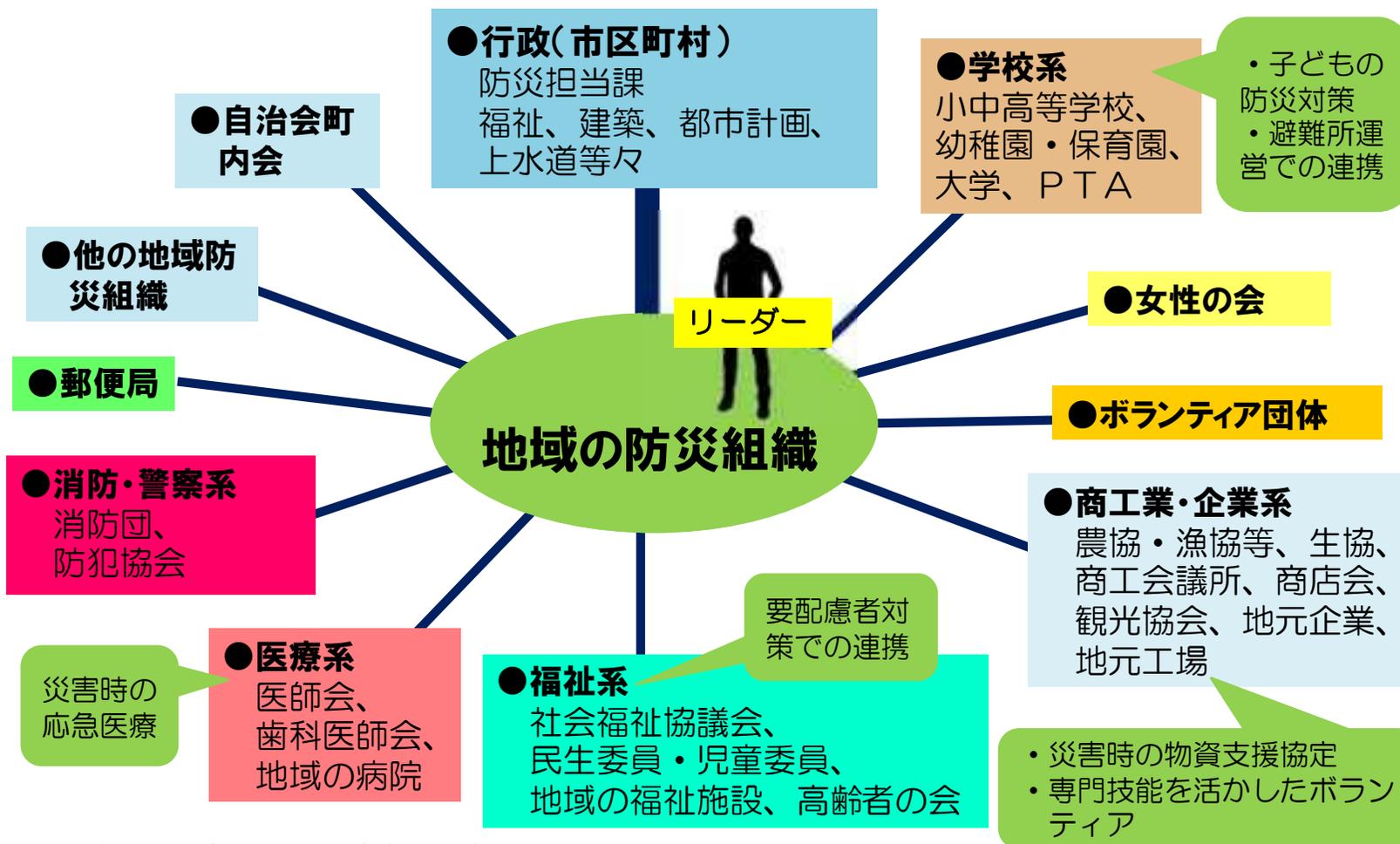
● 地域の防災組織として、「要配慮者の支援体制」づくりを行う(名簿を活用しましょう)

- ✓ 行政や社会福祉協議会等の関係機関との話し合い
- ✓ 地域の要配慮者状況の把握
- ✓ 要配慮者の名簿の作成
- ✓ 戸別訪問による要配慮者の詳細情報把握
- ✓ それぞれの要配慮者を支援する担当者の決定
- ✓ 要配慮者の避難支援訓練の実施

個人情報取り扱いには十分に注意しましょう！

⑦関係機関との連携

- これまでの活動を実践するために、これらの機関との連携が必要



注：吹き出しは各組織との連携の内容例

⑧受援力の強化

- **受援力とは:「支援を受ける力」**
- **平常時に、地域で準備しておくこと**
 - ✓ 土地勘のないボランティアにも利用できるように、地域の情報を整理する（防災マップ等）
 - ✓ 地域の災害ボランティアセンター設置訓練に参加して、一連の活動を知る
 - ✓ 災害時にお手伝いしてもらえる相手を知っておく（地域の市区町村、社会福祉協議会、自治会・町内会、民生委員・児童委員など）

地域を支える防災リーダーの役目

防災士の活動はどのようなものか

防災リーダーになられた方々は町内や地域の行事・活動に積極的に参加され、知り合いを増やしていくことから始めることが必要です。その中で顔の見える付き合いや仲間意識が生まれてお互いの意思疎通・信頼関係によって協力体制が構築されます。

松山市高浜連合自主防災会 会長 蔭原政徳

平常時の活動

- 1) 知ること: ・家庭内・生活圏・町内・地域内での身近な危険箇所を良く知って、そこからどう啓発活動を展開していくかを協議しながら進めることが大切です。 **町歩きから協議～防災マップ作成へと進める**



- 2) 知らせること: ・家具の転倒防止対策・家庭内備蓄(非常持ち出し品)・地域の危険箇所や避難場所、経路、防災関係者宅など(防災マップ、ハザードマップ類)・防災情報の収集方法・地域内の防災資機材等の置き場所等・地区防災計画 **防災出前講座の実施**



3) 体験すること: ・救命救急講習・防災訓練(消火訓練、救出救助訓練、地震体験、煙体験)・避難訓練(避難所運営等)・防災学習(小、中学生対象の防災学習や町歩きでのマップ作成、避難所での係わり方)

防災訓練・避難所運営訓練の実施と継続



4) 地域の整備: ・表示板設置(標高表示、一時避難場所、避難路、防災倉庫、特に危険な場所)・避難場所・避難路・通学路・生活関連(住宅用火災警報器、古い消火器交換)

表示板・案内板を設置し地域内外住民に啓発出来るよう整備する



5) 災害の伝承： ・過去の災害を知って伝える(土砂災害、地震津波、台風高潮、火災など)

土砂災害は同じ場所で発生する場合もある



供養塔

S27.7.10集中豪雨による山崩れ
高浜地区で死者9名



平成30年7月豪雨時の
土砂崩壊箇所

昭和55年の土砂
崩壊範囲

6) 連携の強化： ・地域の関係機関や団体との連携によって協力体制が構築される。また地域と自治体、大学等との連携も平常時における防災活動ではないでしょうか

- ・ 地域(学校・公民館・民協・社協・消防団・団体・企業等) 関係機関(市役所危機管理課・消防署・大学)
- ・ 学校(避難所)との協議: 鍵の貸し出し・使用場所(体育館、教室、校庭、資機材や備品保管場所等)

* 避難所開設から運営に必要な備品類を整備し、**ボックスに入れて配置**

避難所の事前確認：分散避難を進めるためには・・・

避難所の使用配置図を作成し平常時に机上訓練を

コロナ禍における避難所配置

避難所開設手順

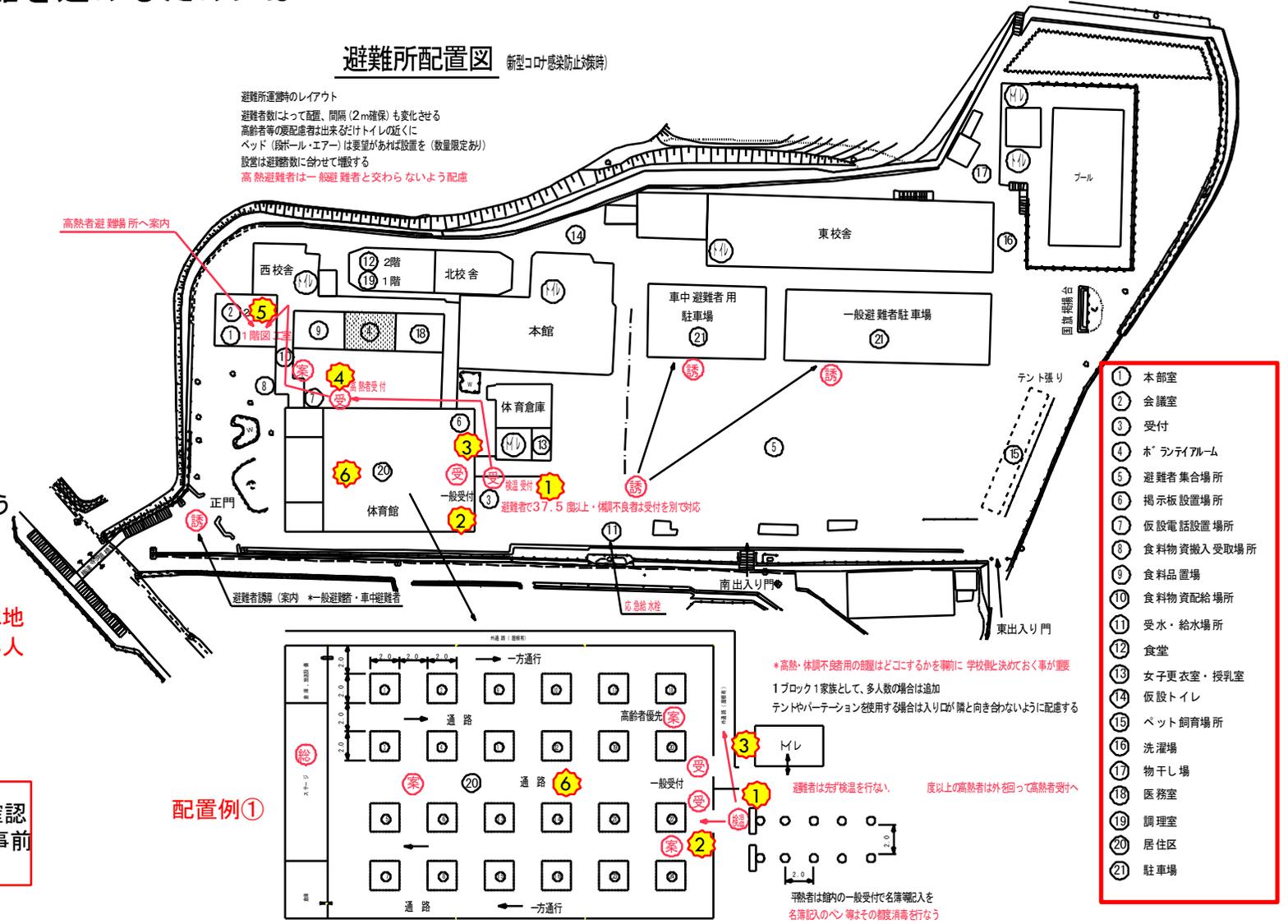
- 1) 避難者の検温（平熱者と高熱者を区別し受け付け場所へ誘導する）
- 2) 平熱者は一般受付で名簿、健康チェックシートを記入し、避難ブロックへ誘導。ブロックには番号をつけ、避難者の管理が出来るようにする。
- 3) 高熱者は高熱受付で再度検温をチェックし名簿等を記入し別の避難場所（教室等）へ誘導する。受付担当者は防護服を使用し、一般受付とは別行動とする。
- 4) 高熱避難者と一般避難者は交わらないように配慮する。

* 事前に各避難所の最大収容人数と、同時に地域住民の避難先確認も合わせて行ない、収容人数を把握する事が重要です。

避難先が自宅・指定避難所・親戚宅・友人宅 宿泊施設・車中・集会所などの意思確認を。

* 親戚、友人宅、施設等への避難者の人数確認や追跡調査が難しい場合が発生する事への事前検討が必要となる。（熊本での避難所）

避難所配置図 新型コロナ感染防止対策



- 1 本部室
- 2 会議室
- 3 受付
- 4 ホール・ラウンジ
- 5 避難者集合場所
- 6 掲示板設置場所
- 7 仮設電話設置場所
- 8 食料物資搬入受取場所
- 9 食料品置場
- 10 食料物資配給場所
- 11 受水・給水場所
- 12 食堂
- 13 女子更衣室・授乳室
- 14 仮設トイレ
- 15 ペット飼育場所
- 16 洗濯場
- 17 物干し場
- 18 医務室
- 19 調理室
- 20 居住区
- 21 駐車場

* 高熱・体調不良者の部屋はどこにするかを事前に学校側と決めておく事が重要
 1ブロック1家族として、多人数の場合は追加
 テントやパーティションを使用する場合は入り口が隣と向き合わないよう配慮する

避難者は先ず検温を行ない、
 度以上の高熱者は外へ回って高熱者受付へ

平熱者は館内の一般受付で名簿記入を
 名簿記入のへ 備はその都度消毒を行なう

避難所 収容人数確保の対応策は



2.1×2.1×1.8 4人収容 (全屋根)



参考金額 14,300円/1台



2.1×2.1×1.8 4人収容 (片屋根)



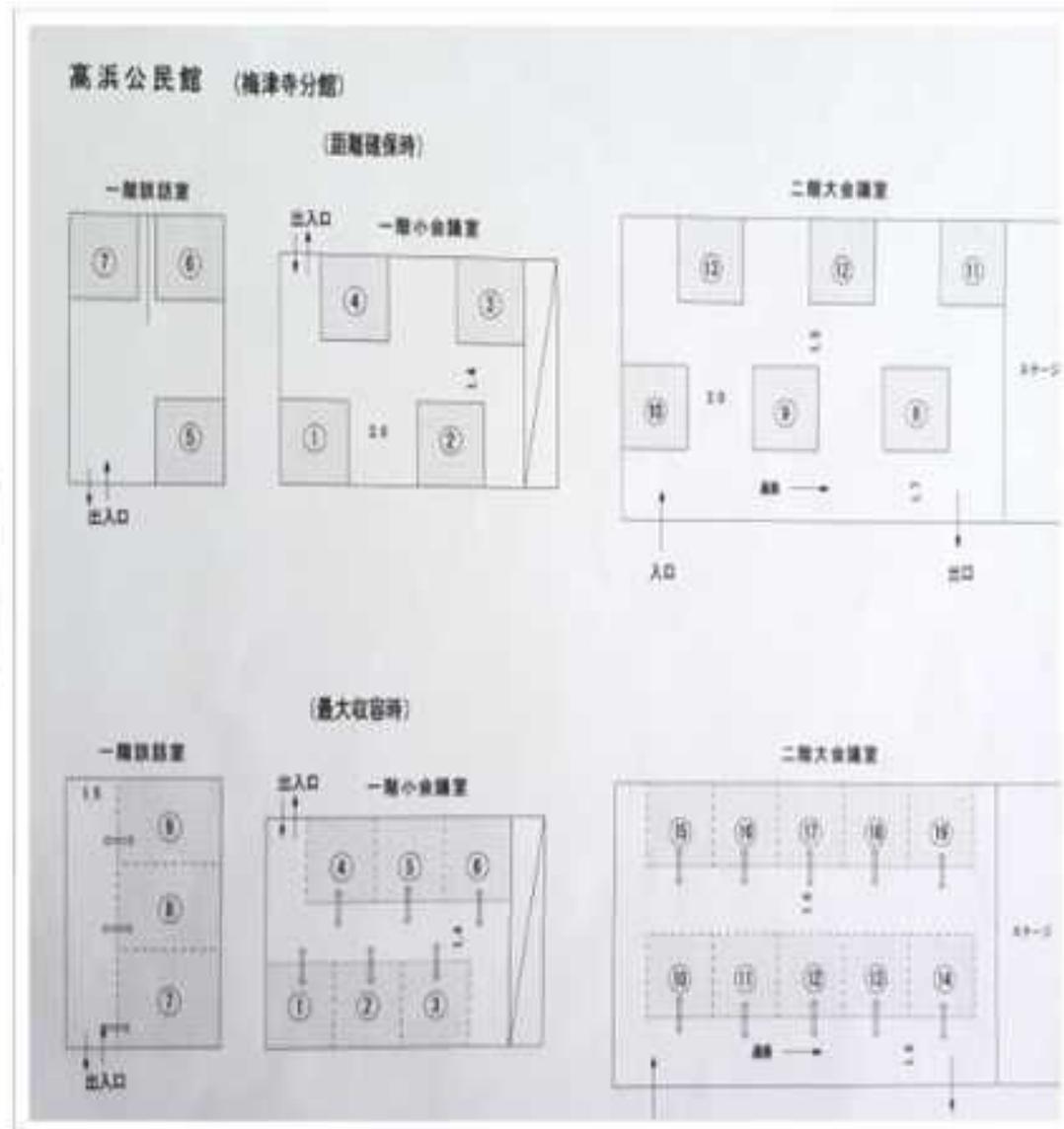
参考金額 26,400円/1台



ベッド (蛇腹 組み立て早い)



ベッド、テーブル、間仕切りセット

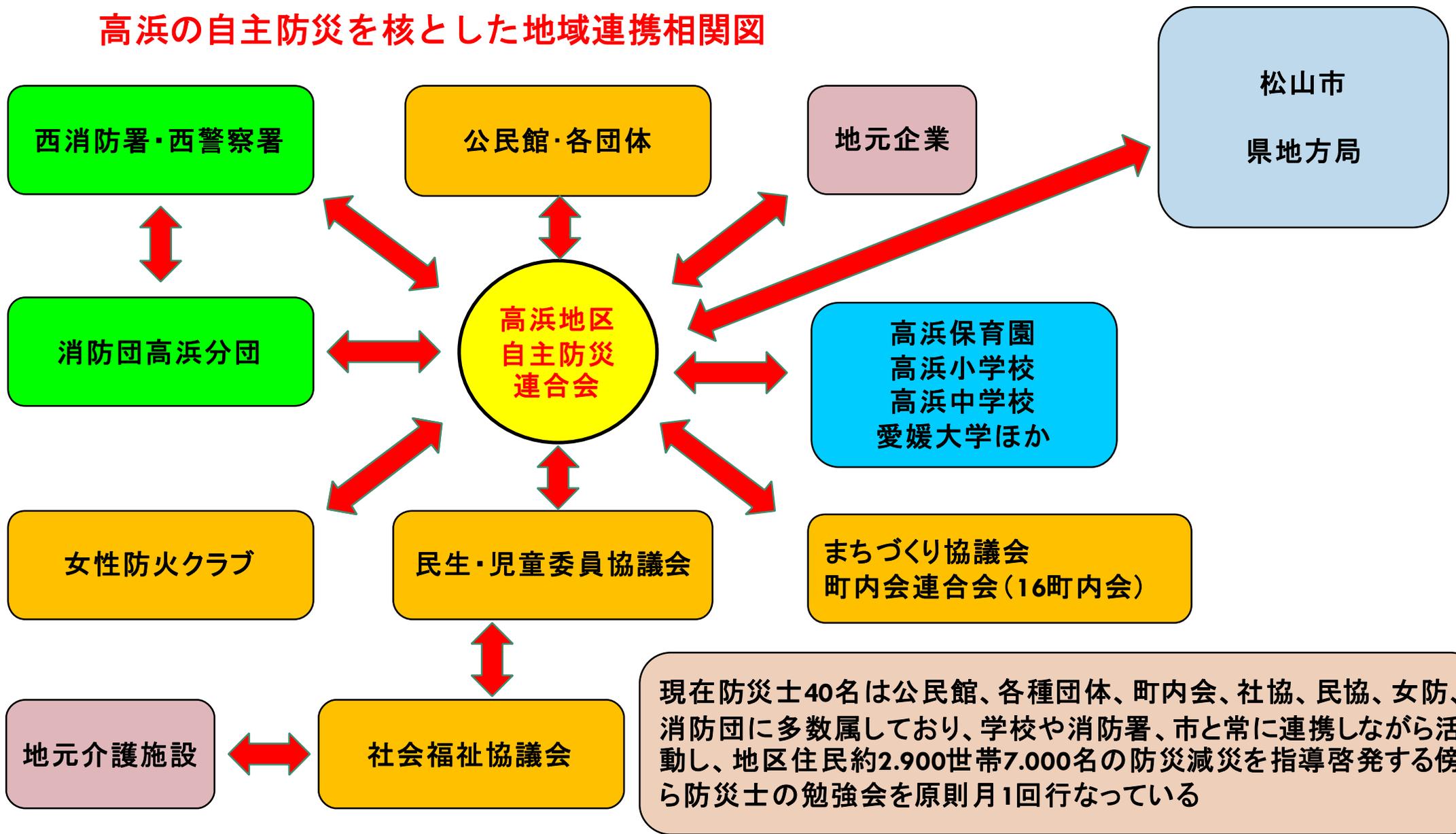


マップ類の修正 (防災マップ・ハザードマップ)

地域の状況は年月を経過するごとに変化するため、数年ごとにまち歩きを行い修正し情報を共有させる



高浜の自主防災を核とした地域連携相関図



参加・体験型・課題解決

ワークショップ 「地域の防災力を高める ためには」



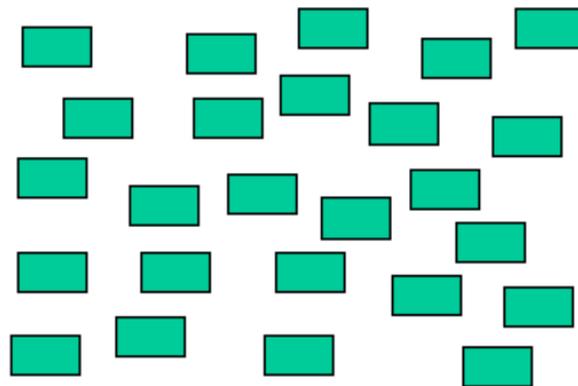
KJ法(川喜多二郎) 断片的な情報・アイデアを整理する手法

5人から6人のグループを作る。

お題「地域の防災力を高めるためには」

一人一人がアイデアを付箋に書いていく。

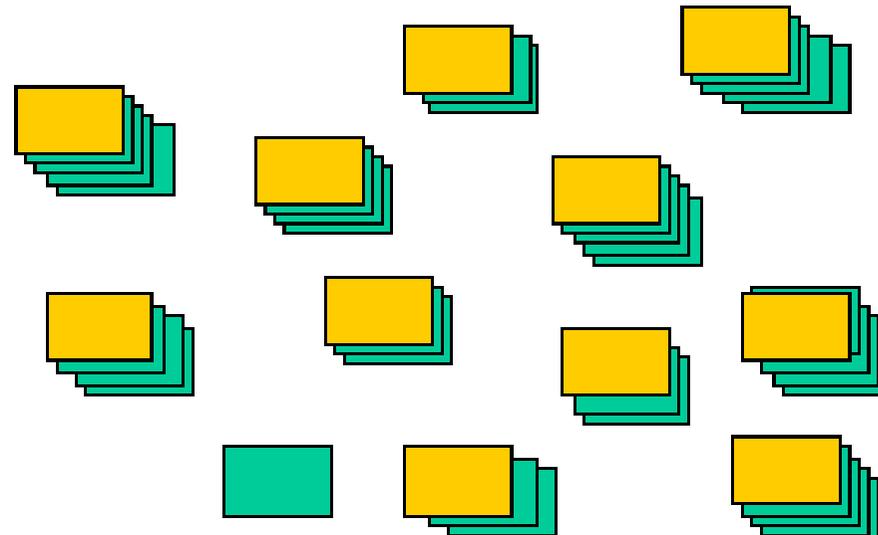
1. カードをばらばらに広げる



KJ法

付箋の内容を見ながら、関連性のある付箋を重ねていきます。

2. 関連性のあるカードを重ねてグループ化する

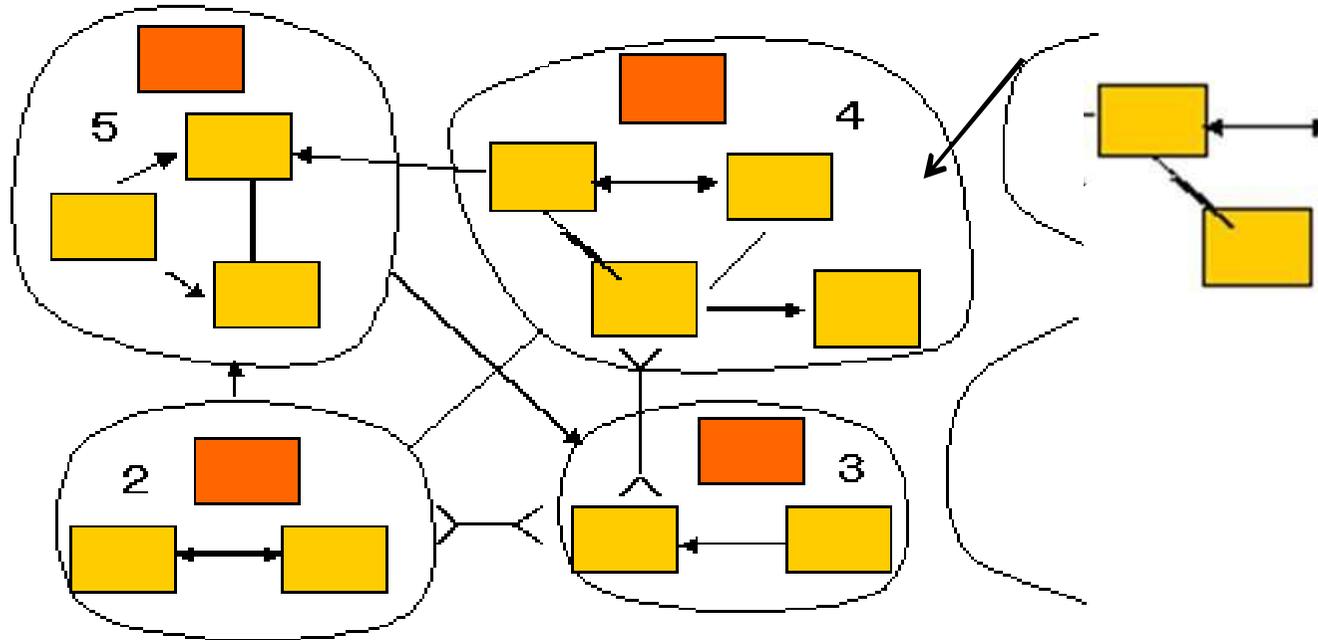


ワークショップ事例(KJ法)

自治会の活動

自主防災会の活動

地域の課題



- ↔ • 関係あり
- • 因果関係
- ⊥ • 対立

防災士の活動

消防団の活動

防災士フォローアッププログラムとは



松山市に在住または勤務し、「防災士」資格を取得している方を対象に、防災活動を行う上で必要とされるスキルを向上させ、地域や企業の防災力を高めることを目的としたプログラムです。

- ※ 各自のスキルや経験などに応じて選択できるよう「初級者向け」「中級者向け」「上級者向け」に区分していますが、受講要件等はありませんので、ご自由に受講してください。



防災士フォローアッププログラムとは

松山市に在住または勤務し、「防災士」資格を取得している方を対象に、防災活動を行う上で必要とされるスキルを向上させ、地域や企業の防災力を高めることを目的としたプログラムです。

※ 各自のスキルや経験などに応じて選択できるよう「初級者向け」「中級者向け」「上級者向け」に区分していますが、受講要件等はありませんので、ご自由に受講してください。



初級者向けプログラム

01 実技 **住宅耐震・家具固定**
家具転倒防止対策や住宅耐震化のほか、非常持ち出し袋、家庭内備蓄など、各家庭における災害への備えを学びます。

02 座学 **災害時の食と栄養**
過去の災害で起きた食の問題と、家庭に必要な備蓄について学びます。また、「パック調理」など、災害時に役立つ調理スキルを身に付けます。

03 座学 **HUG (避難所運営ゲーム)**
カードゲーム「HUG」を通じて、避難所運営について学びます。避難者や様々な困難に対応し、避難所運営のイメージを掴みます。

04 実技 **救出技術・初期消火・安全管理**
倒壊した家屋や転倒した家具からの救出方法や初期消火の方法のほか、活動を行う上での安全行動などについて学びます。

05 実技 **防災まち歩き・防災マップ作り**
地域をめぐり、避難場所や災害対応に役立つ施設や設備などを把握した後、地図に落とし、手作りハザードマップを作成する手法を学びます。

06 座学 **防災・気象情報の収集と活用**
防災・気象情報の種類と内容を理解するほか、収集・活用方法とともに、マイ・タイムラインの作成について学びます。

中級者向けプログラム

07 座学 **災害時のトイレ対策**
過去の災害で起きた様々なトイレの問題を学びます。ワークショップでは、避難所でのトイレの設置方法やトイレテントの明かり対策などを実際に体験します。

08 座学 **災害ボランティア**
災害ボランティアセンターの役割や行政・社会福祉協議会・NPOの連携の重要性を学びます。また、ボランティアを行う際の注意事項なども学びます。

09 座学 **防災訓練・研修の企画と実践**
地域の防災訓練や研修会を企画・立案・実践できる技術を身に付けます。また、わかりやすい資料作成の方法や説明の手法も学びます。

10 座学 **ペット防災**
ペットの飼い主が平常時から備えておくべき対策をはじめ、避難所でのペットの取り扱いなどについて学びます。

上級者向けプログラム

11 実技 **上級救命講習**
成人・小児・乳児に対する心肺蘇生法やAEDの使い方、止血法、異物除去法、搬送法などを、普通救命講習より高度な応急処置として学びます。

12 座学 **男女共同参画と防災**
男女共同参画の視点から災害対応を基盤とする上での基本的な考え方や、平常時の備え、初期段階、避難生活、復旧・復興の各段階での取り組みやべき事項を学びます。

13 実技 **リアルHUG (避難所運営ゲーム)**
大規模災害時に、様々な人が避難してくる中、どのように避難所のレイアウトを考え、避難者に対応するかなど、避難所運営を模擬的に体験します。

14 座学 **要配慮者支援**
災害が発生した時、特に配慮が必要となるのは、どのような人で、どのような対応が必要か、ワークショップなどを通じて学びます。

地域の防災力を高めるためには

- 能登半島地震の教訓：地震で起こりうる全ての災害が発生
- 普段からの備え：防災訓練，避難所運営，要配慮者支援
- フェイズフリーで備える（ローリングストック）
- 災害特性に備えた避難訓練（津波，豪雨災害）
- 地区防災計画の推進・タイムライン（洪水，土砂災害，津波）

地域の防災力を高めるためには

- ワークショップで地域の課題と解決策を探る
- HUG(避難所運営ゲーム), 学校と連携した防災まち歩き, 防災マップの作製
- リアル避難所運営訓練
- 愛媛県宇和海沿岸では夜間津波避難訓練の実施
- 防災士のフォローアップ研修(クロスロード, DIG等)
- 地震火災延焼シミュレータの活用

おわりに：普段の取り組みが防災・減災に繋がる社会
フェイズフリー：楽しく防災・減災を



ご清聴ありがとうございました